現地理解教育への取り組み

パリ日本人学校　教諭
東京学芸大学附属大泉中学校　教諭　高島　志保

キーワード：現地校交流，郊外学習，社会見学

１．はじめに

パリ日本人学校は，パリから２０ｋｍほど西のサンカンタン（パリ市内から高速道路を走って約３０分～４０分）と呼ばれる地域にある。ここは，パリの周りにいくつかあるニュータウンの一つで，パリに集中してしまう人口を分散するために計画的に造られた町である。学校のあるモンティニー市と，周りにある６つの市が集まってこう呼ばれている。できて２０年くらいの新しい町なので，自然が多く人々が住みやすいようにたくさんの工夫が見られる町である。

ここに通う児童・生徒約２８０名のほとんどがパリ市内からスクールバスで登下校をしている。パリ市内においては治安がよいとはいえず，学校にいる時間以外は，ほとんど家か日本人の友人宅で過ごしている。したがって，現地校に通うか現地の文化・スポーツ活動に参加しないかぎり同世代の子ども達との交流はほとんどない。

本校では，「自国の文化を大切にするとともに，異国文化への興味を持って積極的に吸収していこうとする能力・態度を育成する」を国際理解教育のねらいとして，総合的な学習の時間の研究や現地校交流（年２回の交流），社会見学を進めてきている。しかし，現地校交流においては，平成１４年度始め，小学部が交流を続けてきたシャトー市のヴィクトル・ユーゴー校から断られる（日本人学校との交流活動を，フランスの学校の教育課程に位置づけることができないという理由）という事態が起こり，交流相手に苦労をしているのが現状である。私の赴任した平成１５年度も何とか事務官や学校長の尽力のおかげで，モンティニー市の社会教育施設との交流が実現し，１１月中旬以降の交流活動が実施できた。

以下は，１年目の小学部３年生の現地校交流の実践と，２年目の１学期に取り組んだ社会科の実践である。

２．活動の実際

実践１（１年目の小学部３年生の現地校交流）

(1)　交流先

平成１５年度は，モンティニー市の社会教育施設（サントル・ド・ロワジール）の「マネセンター」へ通う３年生と交流を行った。ここは，学校が休日である水曜日（１０時～）と学校が終わった時間（放課後）にのみ開いている施設で，勉強をする場所というより現地の子どもたちがコミュニケーションしながら楽しく過ごす場所という感じだった。フランスの学校は，月・火・木・金で技能教科（体育，美術（図工），音楽）はカリキュラムに入っていない。そこで，それらの教科を補うために各自で学習するための日が，水曜日というわけである。子どもたちは，親と相談して地域の施設に通ったり，習い事をしたりするようである。また，学校がある日の放課後に，親が仕事をしていて子どもを見てやれない家庭や，家にすぐに帰らない子ども達のためにも，この「マネセンター」は利用されていて，ここで宿題をしたり，勉強をならったりしながら親を待つようである。

この「マネセンター」には，昼間は週に１回，あとは月・火・木・金の夕方にしか子どもたちが通ってこないわけだが，とてもすばらしい設備でびっくりする。幼稚園から小６までの年齢の子ども達が，それぞれ一軒の家のような建物で活動できるようになっており，各学年の家には教室が２つと真ん中にトイレがある。それ

ぞれの建物は離れていて，その建物の周りには，サッカーや野球，バスケットが十分にできるスペースがいくつもある（敷地がとても広いので，教室棟から別の教室棟まで石畳や道路が敷かれている）。まるでキャンプ場のバンガローのようである。教室棟とは別に，おやつと昼食（カンティーヌ）や夕食が作られる食堂や，ホールとよばれる室内活動場所もある。

これだけの設備の維持費や人件費を考えると，施設利用の費用はきっと高いのだろうと思ったが，ここの費用は所得によって分けられており，低所得者でも同じように施設が利用できるようなシステムになっていると知った。

(2)　交流までの準備

○フランス語会話能力にはかなり個人差があるので，簡単な挨拶や会話ができるように交流のしおりを準備。

○フランス語で書いた挨拶用の垂れ幕（訪問用），日本文化を紹介する掲示物（フランス語），お土産にするための折り紙作り

○おやつの準備

(3)　交流活動内容

①マネセンター訪問（全てお任せ）

（日程）

９：４５　学校発

１０：００　マネセンター着（プレゼント渡し等）

１０：３０　交流活動

１２：３０　カンティーヌ（食堂）

１３：３０　写真撮影の後，お別れ

（活動内容）

・教室２つに分かれて活動した「マラカス作り」「似顔絵描き」

紙コップの中に豆を入れて上下をテープで張り合わせる。その周りに，のりを付けて色紙を貼り付けてできあがり。似顔絵は友だちをかいてプレゼントしようという時間でフランスの子どもたちは早かった。似せようなんて思ってなく，自分がかきたいように自由にかく。目の前にないものをかいたり，好きな色をつかったり。日本の子どもたちは色にこだわり，見たまんま正確に写し取ろうとする。細かい。日本のよさ，フランスのよさが違った形で表れた。

・ホールでの「人形取りゲーム」「ロミオとジュリエットゲーム」

広いホールで体を動かすゲーム。２つのグループに分かれ，それぞれのチームで自分の番号が言われたら中央に行き，置いてある人形をとった方が勝ち。しかし相手にタッチされたら逆転になる。素早くとればよいだけではなく駆け引きが必要なので，同じグループ同士声援しあい盛り上がる。もう一つは，目隠しをしたロミオが，椅子に縛り付けられたジュリエットを捜すゲーム。ロミオが呼んだらジュリエットは必ず返事をしなければならず，ロミオがジュリエットにタッチしたら終わり。探している様子がとてもおかしくて皆大笑いだったる。

・外での活動「にわとりどくへびきつねゲーム」

外で３チームに分かれ，にわとりはきつねに弱く，きつねはどくへびに弱く，どくへびはにわとりに弱いという関係で捕まえ合う（紙テープの色で分ける）。木々や建物の間を思いっきり走り回る，日本の鬼ごっこに近いこのゲームは，誰もが楽しめ，初対面の子どもたちをあっという間に仲良くさせた。

（カンティーヌ）

フランス式の昼食を同じテーブルで食べた。日本と違ってアントレ，メイン，デザートが順番に出され，フランスパンは何度でもおかわりできる(料金は３．１５ユーロ)。この日は，アントレがキャベツの芯の

サラダ，メインが魚肉ソーセージと野菜のクリームバター煮，デザートがカスタードプリンにお米が入っているものとチーズであった。日本人が食べ慣れていないフランス独特のメニューが並び，子どもたちは，フランスの子どもたちにお世話してもらったり，水やパンを入れてあげながら「おいしい？」と聞き合ったり，交流のしおりに載っているフランス語を使って交流をしていた。

②マネセンター来校（本校計画）

（日程）

１０：００　校庭から子どもたちが教室へ案内。
　　おやつとジュースで迎える。

１０：４５　交流活動（体育館・教室）

１２：１０　昼食・自由遊び

１２：５０　写真撮影・お別れ

（活動内容）

体育館では，ハンカチ落とし，ドッジボールで楽しんだ。その後教室で，爆弾ゲームと折り紙作り。折り紙では作り方を見せて一緒に取り組み，紙飛行機，やっこさん，手裏剣，鶴などを一生懸命教えていた。子どもたちは褒めるのがうまく，ひとつの折りができるたびに「セビヤン！トレビヤン！」と声をかけフランス人もうれしそうにチャレンジしていた。出来上がったものや日本の子どもたちが作ったものは，お土産とした。

(3)　現地校交流の改善点

平成１５年度のモンティニー市の交流許可の正式承諾が７月ということで，本校の交流活動予定が受入側のサントル・ド・ロワジールに提示できたのが，９月の上旬であった（フランスは７・８月がバカンスで，９月が新学期である）。そのため，１１月以降～３月の間に小学部６学年が３回ずつの交流を計画することになり，非常に窮屈で，期日調整が難しかった。早い段階からの計画提示をし，交流内容への本校からの要求も合わせて申し入れる必要があると思われる。また，今回の小学部３年生の交流（受入）では，フランスの子どもたちに日本の伝統文化のよさを伝え，それに触れてもらうという点では，折り紙活動だけで薄かったように感じる。可能であれば，交流先の先生方と何度か打ち合わせをしながら相手側の日本に対する知識を知ったり，興味・関心のある事柄を聞いたりして，お互いが満足のいく活動計画を用意できればと思う。そうすることによって，本校の交流のねらいの一つである「フランスの子どもたちに日本の遊びや習慣などについて伝えることで，日本のよさとフランスのよさを比べて，文化の違いを深め理解を促進する。」が充分に達成できると考えられる。

(4)　平成１６年度の本校の取り組み

「日本の遊びや習慣」や「日本の伝統文化」について十分伝えられなかったことを反省としてあげたが，伝える子どもたち自身がそれについて十分に知らなければ，交流活動を活発にすることはできない。

本校の国際理解教育のねらいは「自国の文化を大切にするとともに，異国文化への興味をもって積極的に吸収していこうとする能力・態度を育成する」であるが，当然子どもたちは，「自国の文化」について簡単に見たり聞いたり触れたりできる環境にはいない。そこで，本年度教室がひとつ空いたのをきっかけに，「国際理解教室」が開かれた。

そこには，時計が４個あり，東京・パリ・ニューヨーク・ニューデリーの現在の時刻がわかるようになっている。フランス語と日本語の掲示や，地図の掲示，かるた・百人一首・メンコ・折り紙・羽子板・凧・相撲・歌舞伎・扇子・染め物などの日本の伝統的な遊びや小物の本物も，机と壁を利用して説明書つきできれいに掲示・展示してある。また，体験コーナーもあり，独楽，ベイゴマ，将棋，囲碁，けん玉，おはじき，お手玉，あやとりを自由に楽しむことができるようになっている。１学期には，けん玉名人決定戦があり大いに盛り上

がった。

この教室の利用が充実することで，本校の子どもたちの日本の伝統文化に対する理解が深まるだけでなく，異学年の友人や現地校の友人との触れ合いにも役立てることができると考えられる。

実践２（小学部３年生の１学期社会科の取り組み）

(1)　はじめに

３年生の社会科では，自分たちが住んでいる市（区，町，村）の様子に関心を持ち，地図や写真などを活用して市全体の特色ある地形，土地利用の様子，主な公共施設の場所と働き，交通の様子などを絵カードや白地図にまとめながら調べ，市の様子は場所によって違いがあることを学習していく。パリ日本人学校の場合は，７つの市からなるサンカンタンというニューダウンに位置するということと，毎日通学してくるバスルートのそばに特徴のある土地利用をしている市（ベルサイユ・サンシールレコール・ボアダルシー）があることを利用して，少し欲張りではあるが複数の市についてまとめていくことにした。そして，班ごとに発表会をした後，まとめながら出てきた疑問について全員で考えていった。

(2)　社会見学

学校のまわりは徒歩で回れるのに対して，１０の市となると見学する場所が広範囲なため，弁当持参のバス見学とした。サンカンタンに住む事務官に，道案内兼通訳をお願いし，地図や事前の下見ではわからない情報を教えていただいた。

市役所での話

・この市は，できて約２０年経ち，初めは５０人も住んでいなかったが現在の人口は３万６千人である。
・市長は国会議員を兼ねている（市長は選挙ではなく推薦で決まるらしい）ので，忙しく不在が多い。議会の開かれる部屋の，市長の席の後ろには必ず大統領（現在シラク大統領）の写真が飾られている。
・結婚式場が市役所の中にあり，ここで全員式を挙げる。
・特に今力を注いでいることは，交通事故を減らすことで，子どもたちが安心して学校や保育園に通えるように注意をしている。現在保育園と学校が３２，中学校が４，高校が４ある。
・家を建てたり，アパートを建てたりするときには必ず市に許可をもらわなければならず，屋根の色や形について決められている。

子どもたちのまとめより

〇エランクール市の一軒家は，屋根の色や形が市で決められていて，たくさん集まっているとそろっていてとてもきれいでした。
〇道のロータリーの噴水のまわりには，お花があり，ライオンもかざってあります。明るく見えてとってもきれいです。きっと日本からくる観光客もそこに連れて行ったらきっとものすごくおどろくと思います。私はこんなのが家のちかくにあったらいいなと思いました。
〇トラップの森の中に工場があります。なぜこんな森の中にあるのでしょう。スズキの工場，リコーの工場，プジョーのサーキットコースもあります。大きなトラックが何台もありました。

３．おわりに

「なぜこんなに緑が多くてきれいなのですか？」「なぜこんなに人が増えたの？」サンカンタンについて子どもたちから出てきた疑問を一緒に考えながら，観光客でいつもにぎわうパリ市とは違うサンカンタンのよさを改めて感じることができた。子どもたちも日本との違いや似ているところを発見し，驚いたり感心したりしながらますますここを好きになっているようである。更に，サンカンタンの子どもたちとの交流がさかんにできればと思う。今後も社会教育施設（サントル・ド・ロワジール）との交流を充実したものにできるよう努力したい。